

ある日の人妻と間男



ムハキヤ



「あっ……だめっ！」

隣の部屋にあの人が……」

「はあはあ、あいつは酒呑んで寝たら簡単には起きないよ」

「もう……こんな関係は終りにしましょう……」

「本当に嫌なら僕を突き飛ばして隣の部屋に駆け込めば良い。全てが終わるだろう？」

はあっ

あっ



「はあ…君の胸は本当にいいもみ心地だ」
「あっ…だめっそんなことしてはだめ…はっん…」
「そんな甘い声で抵抗されて我慢できる男がいると思っっているのかい？」
「はっ…ああんっ」



「ほら、僕の興奮がわかるだろう」
「やあ…お尻に硬いのがあたって…脈打ってる」
「どうして欲しい？」
「それは…その」
「言えないの？では、直接見せてあげれば踏ん切りが付くかな」

あんっ

ぐいっ

ぐんぐん

はあ



「あぁっ……ち○ぽが
びくんびくんしてるっ」
「君に入れたくてこんなになっ
ちゃってるんだ」
「れ……て」
「なにかな」
「……ぽ……れて」
「なに？はつきり
言わなきゃ帰るよ？」
「入れて！あなたの
ち○ぽを突き刺してっ！」

ぶるんっ

はっ

はっ

はぁ



「はあああつんっ…ち○ぽ
きたああっ！」

「はあっはあっ……」

「これ…欲しかったのっ
ずっと待ってたの……」

「あつんっはあっ！」

「よしよし、ようやく
素直になったな」

「ああ……ごめんなさー」

「あ〜」

ズキュー

ズ
ズ
ズ

ズブッ

やんっ

あんっ



「お願い……私の中に
注ぎ込んで……」

「いいのかい？」

「うん……安全日だから
思いっきり……はっあっ……
出して……」

「ああ、たっぷり注いで
あげるよ」

「あんっああ……っはあっ」

「うっくっ……そんなに
しめつけられるとっ……」

「出してっ……びゅびゅ
してっお願いっっ」

やんっ

あんっ

あんっ

びゅっ

ドキュドブッ

スッ

フブッ



「出るっ出すぞお！」
「はあああっ！熱いっ
精液きたあっ！」
「くうおお、搾り取られる」
「はあんっ…ああんっやんっ」
「ううふうう！」
「ああん……はあ……ん」

ビュッ

ドッ
ビュッ

ビュッ

あ













